

# 私の思い出



八方口 宮島 勝

## 白馬の木彫りの生い立ち

「白馬の木彫り」を語る前に、その原点である上田、小県地方で始まった「農民美術」についてお話しします。

大正時代初期に、自由画教育の先駆者で画家でもあった故山本鼎画伯が、ロシアや北欧を旅した折、その地方で作られていた木彫りの民芸品や工芸品に触れ、気候風土の似かよっている信州で、農閑期の副業として成立できないかを考えられ、現在の上田市大屋に、中央で活躍されていた作家の方々の力を結集して「農民美術研究所」を設立し、近隣の町や村の農家の人はもとより一般の人たちも研究生とし

て受け入れ、風俗人形などの民芸品等の講習が始まったのが源です。

昨年、設立九十周年を迎え祝賀の会が催され、関係者が多数集まり懐かしい時を送りました。白馬では旧北城村当時の昭和七年頃、農民美術の第一人者であった初代中村實氏(上田市)が北城村に來られ、村人を集め講習会を開いたと、ご本人から伺った事があります。当時講習を受けられた方々はすでに亡くなられ、その方々の作品が個々の家に残っているのではないかと思います。(もし心当たりがあれば是非ご連絡下さい。)

その活動も、戦争が激しくなり、徐々に衰退していきました。その後、昭和三十年に、長野県特産振興課により農民美術を主体とした「職業訓練技能養成所」が、上田市に設置され、以前その技術を修得された先生方の元へ全県から訓練生が集められ、指導が始ま

りました。

白馬からも一期生として丸山譲氏、二期生として峯村徹氏と私が、美術教師の故石沢清先生の勤めもありこの道に入りました。その後、郷津一美、松沢登美雄、太谷定光、高橋本栄の各氏が続ぎ、各々五十余年以上も木彫りのプロとして活躍しております。また、後継者として丸山和之氏も、頑張っています。それぞれが個性的な仕事をしており全国的に「白馬の木彫り」として知られてきています。全県に広がっていた農民美術も、本拠地の上田地方を除けば大町、白馬に多数の後継者が残っているのみです。一方私どもの指導で、趣味として木彫りをしている村の人たちも、成人学級や同好会として三十年以上も続き、今年も文化祭を指して頑張っています。

白馬三山の雄大な景観や自然豊かな土地柄に惹かれ、村を訪れる人が多いと思います。が、我々の仕事が観光振興の一役を担っていくことが出来れば幸いです。

## 平成23年 第2回 白馬村議会臨時会 平成23年7月15日 開会

### 本会議での質疑

※一般会計補正予算の議案 1件

住宅リフォーム資金補助金  
1200万円増額

#### ●一般会計補正予算

**問(太田 修)** リフォーム資金補助金に関する検討内容は、

**観光農政課長** 経済の活性化を目的とした施策で一昨年度はプレミアム商品券を実施し、本年度は住宅リフォーム補助金を中心に実施しました。申請者が予想を大きく超え、工事内容からも屋根・外壁塗装などが多く、環境色彩計画を交付要項に規定することで景観の向上と、村内経済の活性化を進めます。

**問(篠崎久美子)** 補正額の算出根拠は。

**観光農政課長** 厳しい財政事情の中で許す範囲での対応の結果1200万円を増額補正し、うち200万円は申請後の変更が想定されるための予算対応です。

#### ○第2回臨時会 議決結果○

件名	議決結果
平成23年度白馬村一般会計補正予算(第2号)	可決(賛成全員)

#### ●ミャンマー青年指導者訪日団 臨時会傍聴

ミャンマーの若手政党関係者男女20名の皆さんが、日本の地方行政や議会についての理解を深めるため臨時会を傍聴し、終了後、議会との懇談会がもたれました。同訪問団長を務めた力チン州議会議員のチャンタン・キンさんは「議会傍聴は貴重な体験となりました。ミャンマーへの理解と友好が深まることを願います。」と話していました。